

さんさく ちせやがわぞ どうろ
散策ルート①(滝山川沿い道路)
さんさく じやばら じょうゆうどうろ
散策ルート②(雑野原キャンプ場遊歩道)
さんさく かりがきん げん
散策ルート③(下流河川)
おも こんちゅう
主にみられる昆虫

● 春 (3月~6月頃)

アシナガゴモ、グンバイトンボ、ホソミオツネトンボ、アサヒナカワトンボ、ヤマサナエ、コムシジ、クロアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、サカハチチョウ、ナナホシテントウなど。

● 夏 (6月~9月頃)

ジョロウグモ、オニヤンマ、オオシオカラトンボ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボ、ホシササキリ、キリギリス、ショウリョウバッタ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、アオスジアゲハ、アゲハモドキ、オオオサムシ、カナブン、マツモムシなど。

● 秋 (9月~11月頃)

ジョロウグモ、オオカマキリ、アキアカネ、ノシメトンボ、ナツアカネ、エンマコオロギ、イチモンジセセリ、スジボソヤマキチョウ、ニシムネアカオオアリなど。



はんれい
● : 散策ルート (歩きながら生き物がみられる場所)
● : 景観スポット (景色がきれいな場所)
■ : ダム湖、河川
■ : 集落
— : 道路
— : 遊歩道

たくさんの昆虫をさがしに温井ダムにおそ遊びに来てね!



さんさく しぜんせいどくわん
散策ルート④(自然生態公園)
さんさく ていしゅうへん
散策ルート⑦(ダム堤体周辺)

おも こんちゅう
主にみられる昆虫

● 春 (3月~6月頃)

ホソミオツネトンボ、アサヒナカワトンボ、クロスジギンヤンマ、ムカシヤンマ、コムシジ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ナナホシテントウなど。

● 夏 (6月~9月頃)

フタスジモンカゲロウ、クロイトトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、キリギリス、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ノコギリクワガタ、ノコギリカミキリ、ゴマダラカミキリ、ウシアブ、マツモムシなど。

● 秋 (9月~11月頃)

アキアカネ、ノシメトンボ、オオカマキリ、エンマコオロギ、ツマグロヒョウモン、キアゲハ、ハンミョウなど。



さんさく りんどう
散策ルート③(林道沿い)

おも こんちゅう
主にみられる昆虫

● 春 (3月~6月頃)

クロアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、ナナホシテントウなど。

● 夏 (6月~9月頃)

オニヤンマ、ショウリョウバッタ、アゲハモドキ、エダナナフシ、カブトムシ、オオオサムシ、オオスズメバチなど。

● 秋 (9月~11月頃)

ジョロウグモ、アキアカネ、ホシササキリ、クモガタヒョウモン、ハンミョウなど。



さんさく ゆうどう
散策ルート④(遊歩道沿い)

おも こんちゅう
主にみられる昆虫

● 春 (3月~6月頃)

アサヒナカワトンボ、サカハチチョウ、クロアゲハ、モンシロチョウ、オオオサムシ、ナナホシテントウなど。

● 夏 (6月~9月頃)

ミンミンゼミ、ツバメシジミ、アゲハモドキ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カナブン、ゴマダラカミキリなど。

● 秋 (9月~11月頃)

アキアカネ、オオカマキリ、イチモンジセセリ、クモガタヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ハンミョウなど。



さんさく ナナホシテントウ

おも こんちゅう
主にみられる昆虫

● 春 (3月~6月頃)

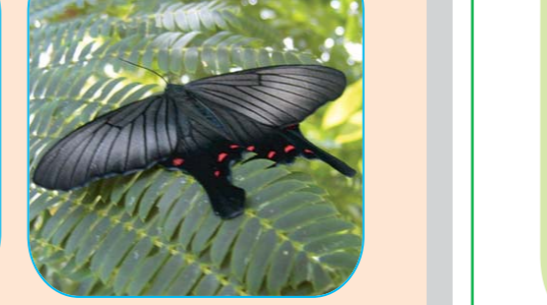
アサヒナカワトンボ、サカハチチョウ、クロアゲハ、モンシロチョウ、オオオサムシ、ナナホシテントウなど。

● 夏 (6月~9月頃)

ミンミンゼミ、ツバメシジミ、アゲハモドキ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カナブン、ゴマダラカミキリなど。

● 秋 (9月~11月頃)

アキアカネ、オオカマキリ、イチモンジセセリ、クモガタヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ハンミョウなど。



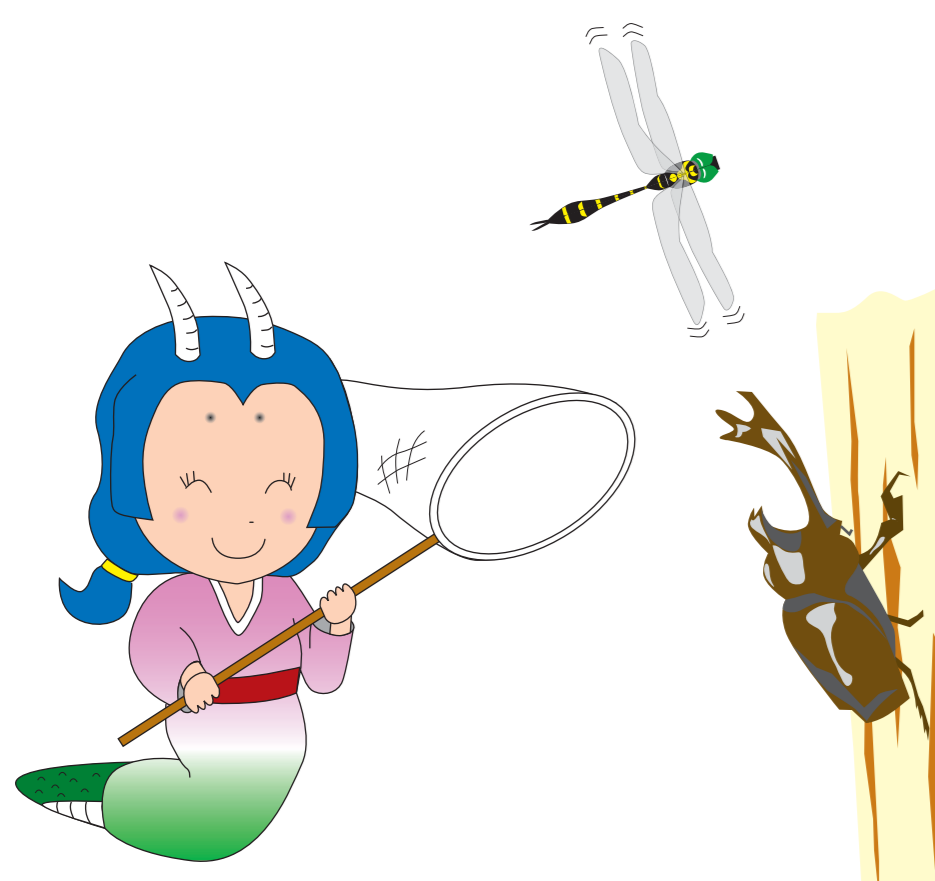
しぜんかんさつじ ちゅうい
自然観察時の注意

- 道のない所に入らない。
- むやみに動物や植物をとらない。
- 川の中では子供だけで遊ばない。
- ゴミは捨てずに持ち帰る。



きけん どうぶつ ちゅうい
危険な動物にも注意しよう!

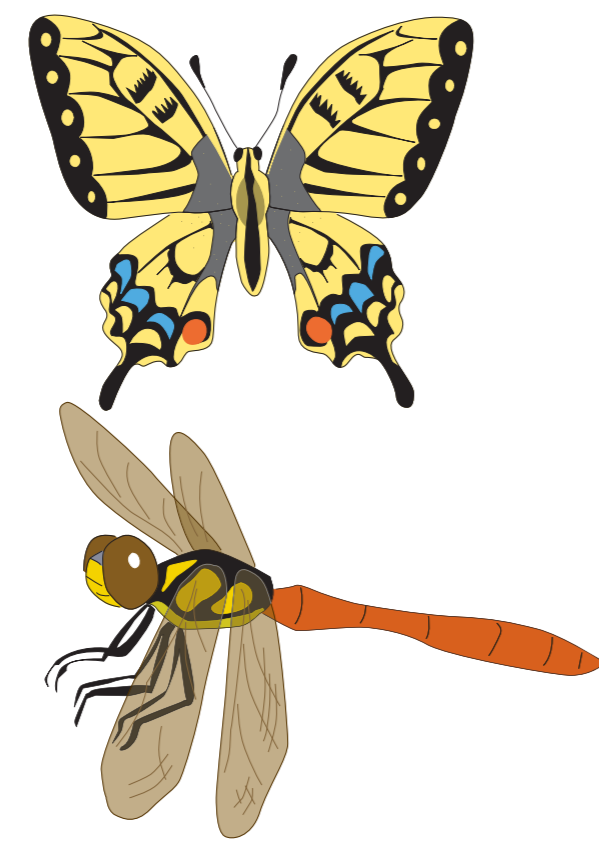
- ハチ(オオスズメバチなど)
 - ① 巣に近づかない。
 - ② ハチが近づいても追いつかない。
 - ③ 襲われたら地面に伏せて動かない。
- ツキノワグマ
 - ① 山の中に入る時は、クマに出会わないために、クマ鈴やラジオなどの音の出るものを持ち歩く。
- ヘビ(マムシ、ヤマカガシ)
 - ① 道のない所を歩かない。
 - ② 足元に気をつける。



温井ダム周辺に暮らす昆虫の紹介

Nukui Dam

温井ダム周辺には、オニヤンマ、ムカシヤンマ、アサヒナカワトンボなどのトンボ類、トノサマバッタ、ショウリョウバッタなどのバッタ類、キアゲハ、モンシロチョウなどのチョウ類、カブトムシ、ノコギリクワガタなどの甲虫類など合計 2082種の昆虫類(クモ類を含む)がいます。



【生息地】おもに見られる場所
【生態】昆虫のすがた、鳴き声など

【観察】見やすい時期

ジョロウグモ (アシナガクモ科)

【生息地】人家付近に普通にみられます。
【生態】夏から秋にかけてみられますが、クモの仲間の中で最も目立つクモです。大きな網を張ります。
【餌】網にかかった昆虫などを食べます。

アサヒナカワトンボ (カワトンボ科)

【生息地】山地、丘陵地の溪流にいます。
【生態】成虫期は3月下旬～8月下旬です。雌は流水中の植物や枯れ枝に産卵します。
【餌】空中を飛ぶ小さな昆虫を食べます。

アキアカネ (トンボ科)

【生息地】平地、市街地の樹林、水田などにいます。
【生態】アカトンボの代表種。夏は山地で過ごし、秋に下山し平地で産卵します。
【餌】空中を飛ぶ小さな昆虫を食べます。

ショウリョウバッタ (バッタ科)

【生息地】農道、河原など乾いた明るい草地にいます。
【生態】雄は雌より体が小さく、飛ぶときに「キチキチキチ」と音を出します。
【餌】草食性で、イネ科植物を食べます。

コムシジ (タテハチョウ科)

【生息地】山地、林縁、市街地などにいます。
【生態】白い三本の筋が自立つチョウで、雌は同種の雄や雌をよく追いかけます。
【餌】幼虫はマメ科植物を食べ、成虫はクリなどの蜜を吸います。

ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)

【生息地】平地や山地にふつうにいます。
【生態】日本を代表する大型のクワガタです。卵から成虫まで2～3年かかります。
【餌】成虫はクヌギ、コナラなどの樹液を吸い、幼虫は朽ち木を食べます。

ナナホシテントウ (テントウムシ科)

【生息地】日当たりのよい草原にいます。
【生態】もっとも普通な種です。イネ科植物の根元に集まって冬を越します。
【餌】成虫、幼虫ともにアブラムシを食べます。

フタスジモンカゲロウ (モンカゲロウ科)

【生息地】幼虫は溪流の砂底にすみ、成虫は溪流付近の林内にいます。
【生態】体長は12～14mmです。成虫は6～8月に羽化します。
【餌】不明です。

クロスジギンヤンマ (ヤンマ科)

【生息地】平地、丘陵地の木陰のある池や沼にいます。
【生態】ギンヤンマに似ていますが、額にT字形黒紋、胸に2黒条があります。
【餌】空中を飛ぶ小さな昆虫を食べます。

オオカマキリ (カマキリ科)

【生息地】林内の道沿い、林縁の茂み、低木林にいます。
【生態】危険が近づくと翅を広げ体を起こし、鎌を持ち上げ威嚇します。
【餌】生きた昆虫類などを食べます。

トノサマバッタ (バッタ科)

【生息地】河原や空き地、荒地、草地など改変された土地によく入り込みます。
【生態】日本で最も大型になるバッタです。
【餌】イネ科やカヤツリグサ科の植物を食べます。

キアゲハ (アゲハチョウ科)

【生息地】明るく開けた場所にいます。
【生態】成虫は4月から10月頃まで、年に2回～4回ほど発生します。
【餌】幼虫はバゼリなどを食べ、成虫はアザミ類やツツジ類などの蜜を吸います。

オオオサマシ (オサマシ科)

【生息地】低山地の雑木林にいます。
【生態】窟は倒木の下などにかくれ、夜に活動します。飛ぶことはできません。
【餌】成虫、幼虫ともにミミズなどを捕らえて食べます。

オオスズメバチ (スズメバチ科)

【生息地】土の中、木のくなどに巣を作ります。
【生態】日本で最も大きなハチです。毒性も攻撃性も強く、刺されると危険です。
【餌】成虫は樹液に集まり、幼虫は昆虫類を食べます。

クロイトトンボ (イトトンボ科)

【生息地】平地、丘陵地の植生豊かな池沼に多く、水田や畦の間の川にもみられます。
【生態】代表的なイトトンボで、もっとも個体数が多く産地も広い普通の種です。
【餌】ハエ・カの仲間などを食べます。

ムカシヤンマ (ムカシヤンマ科)

【生息地】おもに低山地や山地の湿地で水が落ちるような場所にいます。
【生態】幼虫は湿った土やコケの間にトンネルをほって生活しています。
【餌】空中を飛ぶ小さな昆虫を食べます。

アブラゼミ (ゼミ科)

【生息地】平地、市街地の樹林、山林、梨園などにいます。
【生態】「ジ、ジ、ジ」とやかましく鳴きます。成虫の寿命は2週間前後です。
【餌】樹木の汁を吸います。

イチモンジセセリ (セセリチョウ科)

【生息地】日当たりのよい草地にいます。
【生態】幼虫はイネの害虫として知られています。秋に急に個体数を増します。
【餌】幼虫はイネ科などの植物を食べ、成虫はアザミ類などの蜜を吸います。

モンシロチョウ (シロチョウ科)

【生息地】日当たりのよい開けた環境にいます。
【生態】上下左右に不規則に飛びます。集団で海を渡ることが知られています。
【餌】幼虫はアブラナ科の植物を食べ、成虫はタンポポなどの蜜を吸います。

カナブン (コガネムシ科)

【生息地】平地から低山地の雑木林にいます。
【生態】成虫は6～9月にあられ、体色は銅色から緑色や紺色の変異があります。
【餌】成虫はクヌギなどの樹液、幼虫は枯れてくさった木を食べます。

ウシアブ (アブ科)

【生息地】平地や山地の牧場などにいます。
【生態】卵は牛舎などに三角錐状卵塊で産み付けます。幼虫期間は約2年です。
【餌】幼虫はミミズなどを食べ、成虫は牛や馬などから吸血します。

グンバイトンボ (モナサシトンボ科)

【生息地】丘陵地や低山地の湧水のある緩やかな清流にいます。
【生態】雌は縄張りを持ち、雄を求めて水面を飛びまわります。
【餌】空中を飛ぶ小さな昆虫を食べます。

オニヤンマ (オニヤンマ科)

【生息地】小川や湧水、湿地などきわめて広い範囲で暮らしています。
【生態】1年は卵で冬を越し、3年間は幼虫で冬を越し、5年目に羽化します。
【餌】自分より小さな小動物を食べます。

ミンミンゼミ (ゼミ科)

【生息地】関東より北では平地、西南日本では低山地の湿った林にいます。
【生態】7～9月にみられ、「ミン、ミンミン」と鳴きます。
【餌】樹木の汁を吸います。

ツバメシジミ (シジミチョウ科)

【生息地】日当たりのよい草地などにいます。
【生態】4～10月にみられ、草原を活発に飛び、裏面の白色がよく自立ちます。
【餌】幼虫はマメ科の植物を食べ、成虫は花の蜜を吸います。

カラスアゲハ (アゲハチョウ科)

【生息地】平地から亜高山帯まで広がります。
【生態】春、夏の年2回発生します。木立の中をうろうろとジグザグ飛行します。
【餌】幼虫はミカン科の植物を食べ、成虫はツツジやウツギなどの蜜を吸います。

ノコギリカミキリ (カミキリムシ科)

【生息地】平地から山地にふつうにみられます。
【生態】触角は節が12個あります。雌はよく飛び回り、昼間でも歩き回ります。
【餌】成虫は樹液、幼虫はクヌギなどの枯れ木を食べます。

◎写真提供
① 林建設環境研究所
※上記以外の写真は、現地撮影した写真や温井ダムの生物調査報告書等の既存資料に掲載されている写真を使用しています。